



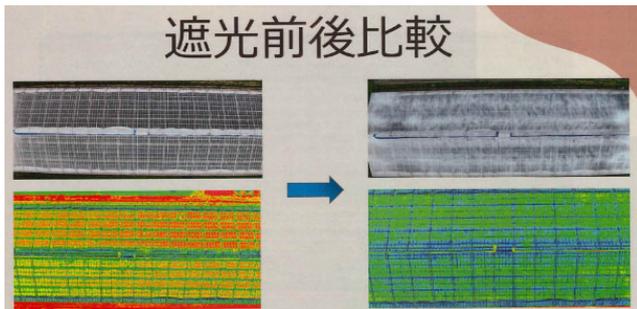
§1 暑い夏対策 遮光剤「ファインシェードスカイ」の効果

世界規模での温暖化の影響で、日本でも特に夏場の気温上昇により農作物の高温障害の被害も大きくなっております。今後ますます暑さ対策資材の需要は増加すると思われれます。その中で、施設園芸ハウスの遮光塗布剤のドローン散布が注目を浴びており、山正でも今年から実証試験を開始しております。今月はこの遮光剤についてご紹介させていただきます。



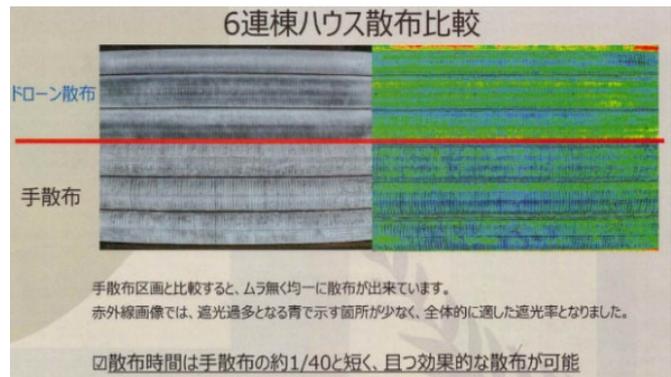
ファインシェードスカイ

希釈不要で、使用量は10aあたり2缶（16ℓ）塗布後1.5～2カ月付着し遮光率20～30%を維持します。ハウス内の温度上昇を抑え、イチゴや軟弱野菜などの『焼け』を軽減して作物品質を向上させるのに効果的です。また、無人小型航空機（ドローン等）を使用して塗布する為、転落などの高所作業のリスクを回避することができ、作業時間も製品一缶あたり10分程度（手散布の40分の1）と手作業と比べると安全性・作業性に大きく優れます。



ハウス吹き付け後の温度センサーの結果です。

「ファインシェード」散布前後でハウス内の温度上昇は抑えられています。また、手散布と比較して散布ムラが少なく、均一に塗布されていることがわかります。今年の実証試験として、キュウリとトマトのハウスで散布してその効果を確認中です。ご興味のある方は、担当者までご連絡ください。



ビニールハウスクリーナー

吹き付けタイプの遮光剤を洗い流す際での使用だけでなく、塵・排ガス・花粉・カビ・コケなどビニールハウス内外の汚れを除去することができます。

使用方法として、ブラシを使用する場合は30～50倍希釈（100ℓに対してクリーナー2～3ℓ）、動噴だけで洗浄する場合は10倍希釈（100ℓに対してクリーナー10ℓ）を使用し、散布後に約30分クリーナーを汚れに浸透させてから動噴で洗い流す方法があります。

洗浄する事でフィルムを長持ちさせ、日射量向上や生育向上も期待できます。

原油価格が高騰している中、石油製品でもあるハウスビニールの価格も高騰しております。

フィルムを長持ちさせて、環境にもお財布にも配慮した資材の活用をオススメします。

§ 2 気門封鎖剤について

夏野菜の収穫が最盛期を迎えておりますが、各種ニュースにて騒がれているように今年は特に虫が多い年との事です。害虫からの被害も気になるところですが、収穫直前に化学農薬を散布するのはちょっと気になるという方へ、気門封鎖剤と呼ばれる農薬についてご紹介いたします。

気門封鎖剤とは、虫体に付着した薬液が気門(虫の呼吸口)を封鎖して窒息死させる殺虫剤で、糖系統、油系統、界面活性剤系統の3種類に大きく分類されています。

1) 糖系統 : 粘着くん液剤など

漢字で表されている通り、食品(デンプン)を用いた農薬です。食品ベースの成分ですのでもちろん人体に対する安全性が高いです。希釈倍率は100~200倍などが主で、かなりの高濃度で使用する農薬ですが、気門封鎖系の農薬の中では植物への薬害が出にくいという特徴があります。化学農薬のようなパンチ力は期待できませんが、対象害虫が多発生している場合は、あまりオススメできませんが、低密度条件ではコントロール剤として用いることができます。



2) 油系統 : サフオイル乳剤、サンクリスタル乳剤など

100~600倍という様に糖系統剤よりは薄い濃度で使うことができます。登録内容と発生条件に合わせて希釈倍率は使い分けますが、原料に油を用いている事もあり、高温時の散布だと油侵斑という油染みのような薬害や、黒ずみなどの薬害を生じることがあります。ただ、この系統は気門封鎖だけでなく、薬剤によってはハダニ等に対する殺卵作用や、一部の害虫に対して忌避をうかがわせるような作用、既存農薬と混用することでの相乗作用といった効果が期待できます。



3) 界面活性剤系統 : ムシラップなど

糖系統と油系統の良いところ同士を狙った系統です。希釈倍率は500~1000倍と希釈率の幅が気門封鎖剤としては高い倍率で使用します。油系統の気門封鎖剤に比べ、ハダニ等に対する殺卵作用は弱いですが、ハダニ・アブラムシ・コナジラミに対して幼虫から成虫にかけての効果は、比較的高い系統です。この界面活性剤系統は、モノマー系とポリマー系に細分化され、モノマー系は混用時に薬害が出やすい物も有りますが、ポリマー系は作物表皮への刺激が少ない為、薬害の発生が比較的、出にくいといった、特徴があります。気門封鎖剤には薬害リスクや混用の注意点などの使いにくさもありますが、有機JASに適合している農薬も多く、使用回数・収穫前日数など収穫直前でも使いやすいなど数多くのメリットもあります。



このような気門封鎖剤を上手に利用することで、農薬の使用回数を気にすることなく、虫の被害を抑制することが可能です。ただし、ご利用の際は登録内容に十分注意し、ラベルをよく確認してからご使用ください。